

里山グループ

池山 良武

里山の今



エコファームグループ

鈴木 経子

五月に入ると里山の緑は一層映えてくる。既に濃緑になっている樹種もあるが、多くはまぶしいほどのあさぎ色に、見方によっては透き通って見える。これが五月の爽やかな風と相まってすがすがしい時季を実感させてくれるのである。音や臭いで季節を知るという繊細な方もいるが、目から受け取るそれがいかにも大きいように思う。各地の山里は葛や竹などの侵入で荒れ放題になっていたりと、開発によって痩せ細ったりで里山の痕跡がわずかに公園や緑地として命脈を保っている所も多い。

「里山」の素晴らしさは何といっても景観である。「里山は遠く眺めて豊か、近くに見て和み、中に入って命、新た」と誰かが詠っているが、そのためには今や、よそ者も含めて協力的意識的な努力が欠かせない。

ならやまプロジェクトでは暗黙のうちにこの思いでグループや個人が活動している。遠くからの景観はR24やならやま大通りから見るかぎり、ややボリュームが不足している。これは数年前から続いたナラ枯れが大きく響いている。やはり遠景は100年前後の大木が間近に盛り上がるように映るに越したことはない。近くの景観はどうか。これは、活動15年の成果なのだろう。草花、野菜畑、水性動植物の保護など人間生活と自然の接点が足元から広がり、奥行きも繊細さも十分である。さて、中に入ってはどうか。コナラを中心としたブナ科の樹木やマツ科の大樹が激減し、10年~20年のこの種の若木も寂しい限りである。目に付くのは覆い被さるササ竹や竹、ヒサカキ(びしゃこ)などの常緑樹、さらには葛、イバラなどが勢いついている。これは里山が荒れる前兆である。及ばずながら笹竹と葛をはじめとする蔓草の蔓延を食い止めたいと努めている。椎茸の原木作りも切り株の藁(ひこばえ)を整えて、最低でも10年は掛かる。これも計画的に進めるのが、今の里山グループの努めではないだろうか。

今年の桜は例年より10日も早く開花。1月に低温の日が続き、桜の蕾が冬眠から目覚めたからという。おかげで桜前線は、早いスピードで列島を北上しました。

4月に入り気温は例年よりも高い日が続いています。先月に定植したジャガイモの芽が、マルチを持ち上げてきたので、そっと手で探りながらマルチに切れ目を入れます。太陽光の当たらない暗闇の中で出た芽は、黄色で花が咲いているかのようです。数日もすれば、しっかりとした緑色になりますが、朝晩冷え込む日が続いていますので、霜の害を受けないか少し心配です。

一方、リニューアルした育苗ハウスでは、カボチャ、スイカ、ズッキーニなどのウリ科の苗が芽を出し日に日に大きく育っています。まもなくポット苗の植え替えに追われるようになります。

ところで、この時期は畑の収穫物はほとんどなく、ほのぼのの市の主役はタケノコです。タケノコ隊の男性陣は、竹藪の中で頭を少しだけ出しているタケノコを探して掘り上げ、ベースキャンプとの間を幾度となく往復しています。中には直径が20cm以上もの超大物もあり、汗だくでの作業が続いています。

タケノコのプロフィールを調べますと、「分類」はイネ科、「原産地」は中国、「主な栄養成分」はタンパク質・カリウム・食物繊維・チロシン・ビタミンB1・B2・C・Eなどで、これらの成分は、免疫向上・代謝促進・疲労回復・美肌効果などに役立つとのこと。カットした時に節の中に白い粉のような物が見られますが、アミノ酸の一種「チロシン」で脳の活性化に良いといわれています。

皆さん、タケノコをいっぱい食べて頑張りようではありませんか。



景観グループ

豊田 正人

里山の今



鳥シリーズ

小田 久美子

◆イソヒヨドリ

「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく、山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲のほそくたなびきたる。夏は・・・」と続く。

皆さまがよくご存じの、枕草子の1段目であります。清少納言の春夏秋冬の季節を愛する心を表した作品です。「春はあけぼの」ではなく「春はさくら」としなかったのが斬新な発想で、個性的な美意識を特徴とするものだ物の本に書かれています。その春が、うぐいすの鳴き声と共に、里山にも舞い降りてくれたようで、心もうきうきしてきます。今では春の代名詞「桜」。里山の桜の花も自分たちを見つめてと言わんばかりに花びらを大きく開いておりましたが、今年はいつになく気温が高く、早く花も散ってしまいすっかり葉桜になってしまいました。それでも、いろいろな木々のまばゆいばかりの新緑が私たちを迎えてくれます。そして、私たちに新たなエネルギーを与えてくれています。

景観グループにとっては、花や新緑ばかり見てはいられないのです。足元から足腰の強い新芽がぐいぐいと背丈を伸ばしてきます。気が付けば短い私の足の膝ぐらいまで成長してきます。そのようになれば、いよいよ雑草と対峙しなければなりません。ところが、この相手なかなかの強者で切っても切っても、私たちの苦労をあざ笑うかのようにならなくなってくるのです。きっと草刈り機のエンジン音が、とても心地よく聞こえているのではないかと思ってしまうくらい、へこたれないのです。あと数週間もすると草刈りが始まりますが、「一休みしようか!」や「しっかり水分補給をしてください」の合図のうれしいこと。「やったあ」と独りで心の中で叫びます。この時ばかりは、先輩が女神様のように見えます。これからのシーズン、熱中症に気を付けながら、雑草に負けない雑草魂で力を合わせて景観づくりをしていきます。



5年前『奈良の野鳥物語』の中で「イソヒヨドリ」を担当しました。その後も機会あるごとに記録を継続し、都市鳥研究家の川内博さんに報告しています。《奈良学園・イオン登美ヶ丘・ライフ学園前》といえ、近くにお住まいの会員や奈良学園の出前授業に参加した方などご存知の方も多いエリアですが、そこを歩けばイソヒヨドリの声や姿(時に複数・運が良ければ巣立ち雛たち)に出会えます。3年前からは会費無しの我が町内会のメンバーにもなり、今年も雄が忙しくテリトリーを巡回して良い声を聞かせてくれています。先日久し振りに、橿原公苑定例探鳥会に参加しました。駅前通りでは定番のイソヒヨドリ囀りのお出迎え。囀りながらテリトリーに侵入して来た際に、体を膨らませて対峙する別のみ。近くには鳴かずに静かに♀の姿がありました。どちらかのパートナーを応援しているのでしょうか、それとも両者の力量を観察しているのでしょうか、緊迫した雰囲気漂うその場に残り



「撮影・田中」

たいけど、後ろ髪を引かれる思いを振り切り公苑内へ進むとアオバトの声。木の間隠れにオガタマノキの花と幾つかのアオバトの青い色発見!!何人もの目で探しても若葉と同化した後ろ姿しか見られませんが、下尾筒(尾羽の裏)の独特の模様がよく見えました。どれも枝がかぶってカメラマンさんには残念なひと時でした。深田池では、旅立ち前の婚活に励むカモたちの数も減り、カワウ・サギたちが巣作りや抱卵を始め、最近めったに見られないゴイサギが枯れ木に溶け合って集まっていました。公苑内の冬鳥たちの声も姿もひっそりしていましたが、ランデブー飛行のオオタカペアや、北帰行を急ぐノスリたち、美声を誇るウグイスやスズメ・カラ類の囀りもにぎやかになり、それぞれが「春だよ! ~春だよ!」。3/23。桜も、早過ぎる季節の変わりを告げていました。